

宮川流域振興調整会議 事項書

日時：令和5年11月8日(水)

15:55 ～ 16:15

場所：プレゼンテーションルーム

【議題】

- ・ 宮川における流量回復の実施結果と検証について<協議>・・・資料1
(P. 1, ～P. 4)
- ・ 宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議について<報告>
・・・資料2、3
(P. 5～P. 6)

宮川流域振興調整会議
出席者名簿

令和5年11月8日(水)
15:55～16:15
県庁3階
プレゼンテーションルーム

(敬称は略させていただきました)

	氏名	
副 知 事	廣田 恵子	座長
副 知 事	服部 浩	副座長
総務部長	更屋 英洋	委員
地域連携・交通部長	清水 英彦	委員
農林水産部長	中野 敦子	委員
県土整備部長	若尾 将徳	委員
企業庁長	山口 武美	委員
環境共生局長	枅屋 典子	
教育長	福永 和伸	

宮川における流量回復の実施結果と検証について

1. 流量回復放流の目的

三重県が策定した宮川流域ルネッサンスビジョン（平成10年2月）に掲げられた基本理念「豊かな清らかな川の流れを甦らせる健全な水循環の構築」を目指し、平成13年3月に流量回復方策の目標として定めた「粟生頭首工直下 3.0 m³/s の流量確保」を達成することを目的として、宮川ダムからの放流を実施する。

（宮川における流量回復放流実施要領 第2条より）

2. 令和5年度における運用実施結果について

（1）運用実施期間

令和5年4月1日（土）～ 9月30日（土）

（2）運用実施結果

○流量回復放流 7月13日～7月18日（6日間） 87.9万m³／1,000万m³

参考：かんがい放流量 4月14日～4月17日（4日間） 67.0万m³

7月18日～8月7日（21日間） 569.6万m³

合計（25日間） 636.6万m³／750万m³

○粟生頭首工直下で3.0 m³/sの流量を下回った日数

7月18日～8月7日 21日間（かんがい放流実施中）

【参考】流量回復放流の運用実績

実施期間	流量回復放流量
平成26年8月1日～6日	6日間 66.4万m ³
平成28年7月29日～8月5日	8日間 93.3万m ³
令和2年6月1日～6月19日	19日間 293.6万m ³
令和2年8月11日～8月28日	18日間 228.0万m ³
令和4年7月29日～8月8日 同時放流(流量回復放流)	11日間 202.6万m ³
(令和4年7月29日～8月5日 同時放流(かんがい放流))	(8日間) (59.9万m ³)

【参考】粟生頭首工直下3.0 m³/sの流量を下回った日数実績

下回った期間	備考
平成26年6月25日～27日	3日間 -
平成27年6月1日～5日	5日間 かんがい放流実施中
平成28年8月5日～23日	19日間 かんがい放流実施中
平成29年6月1日～21日、7月18日～27日	31日間 かんがい放流実施中
平成30年7月25日～27日	3日間 かんがい放流実施中

3. 流量回復取組の総括(案)

流量回復放流とかんがい放流の同時放流は、単独での放流に比べ、宮川ダム貯水量の減少が早まることや、放流水の水質管理などのリスクが高まることが考えられます。

令和5年度は、7月13日から流量回復放流を開始しましたが、7月18日からのかんがい放流を実施するにあたり、宮川ダム貯水量の減少や農業用水の使用状況を考慮し、同時放流は実施しませんでした。その結果、粟生頭首工直下で3.0 m³/sの流量を21日間下回りましたが、7月と8月の気温は平年に比べてかなり高かったことや、降水量もかなり少ない状況が続いたことに加え、関係者からの意見も踏まえると、適正な判断ができたと考えています。

また、令和4年度、初めて実施した同時放流の後、運用手順などについて関係者から意見があったため、運用の見直し協議を行い、改善を図りました。

今回、一部運用を見直したことに評価するとの声がある一方、手順の迅速化や判断など、さらなる見直しを求める意見もいただいていることから、引き続き、関係者と協力して運用の改善に努めていきます。

今後も同時放流の取組について、流域へのリスクが十分に確認されるまで、拙速に本格運用に入るのではなく、試行による実績を積み重ね、慎重に検証を継続することとします。

<参考>

主な関係者からの申入内容と、その対応案は次のとおりです。

1. 主な申入内容

(1) かんがい放流と流量回復放流の同時放流について

関係者からの
申入内容

流量回復放流の運用ルールでは、かんがい放流実施時には流量回復放流は行わないとしているが、かんがい放流実施時は粟生頭首工直下3.0 m³/sの流量を下回ることから、かんがい放流と流量回復放流の同時放流について検討を進めてほしい。

但し、同時放流は単独での放流に比べ、宮川ダム貯留水量の減少が早まることや、放流水の水質管理など流域へのリスクが高くなるということを十分に理解したうえで、拙速に本格運用に入るのではなく慎重に試行を続けてもらいたい。

[対応]

リスクが十分に確認されるまで、関係者の協力のもと河川状況に応じて試行運用を実施していきます。放流量や手順、判断について実績を積み重ね、慎重に検証を行い流量回復放流に取り組んでいきます。

(2) 流量回復放流の運用の実施について

関係者からの
申入内容

令和5年度は、賢明なリスク対応の運用が図られたと考えている。放流の開始、流量の変更、停止の判断を行う主体について、かんがい放流は宮川用水土地改良区、流量回復放流は水資源・地域プロジェクト課である。実施主体が別機関であることから、双方の手順を考慮したうえで、運用ルールを検討し、判断を適正に行っていただきたい。

〔対応〕

関係者と協議を行い、要領、運用の改正を行いました。より適正な判断を行えるよう、各機関の手順を再確認し、放流量や手順、判断について実績を積み重ね、慎重に検証を行い流量回復放流に取り組んでいきます。

(3) 流用回復放流の運用ルールについて

関係者からの
申入内容

引き続き、手順の迅速化や判断について改善していただき、適正な流量回復放流を行っていただきたい。

〔対応〕

手順の迅速化や判断の改善を図り、リスク対応に繋げていきたいと考えています。実績を積み重ね、慎重に検証を行い、さらなる運用ルールの改善に努めます。

(4) 流量回復放流の放流操作について

関係者からの
申入内容

流量回復放流の運用面では、少量の流量変更であっても即時に対応出来るように、手順を簡潔にし、数時間でも操作が遅れることのない体制を整えていただきたい。

〔対応〕

引き続き、手順の簡素化など見直しを行い、迅速な操作に努めます。

(5) 土日等の休日の対応について

関係者からの
申入内容

運用期間中は、土日、祝日、お盆期間を問わずに、流量回復開始等の操作を実施できる体制としてほしい。

〔対応〕

令和3年4月に運用を改正し、同時放流実施時には、休日も予め体制を整えられる場合、流量の減量、停止に限り、8時30分から17時まで対応することとしています。休日の対応が円滑に行えるように、引き続き、手順の改善に努めます。

(6) 放流量の河道ロス率について

（関係者からの
申入内容） 放流量の河道ロス率を5%としているが、5%が妥当であるかについて放流した実績から検証してほしい。

〔対応〕 検証に必要となる観測流量データのとりまとめを行いました。
しかし、放流実績が少ないことから、今後もデータを蓄積して妥当性の検証に取り組んでいきます。

2. 「宮川における流量回復放流実施要領」等の一部改正について

令和4年度の検証における検討結果等を受け、令和5年6月12日に実施要領と運用を改正いたしました。

- ・「宮川における流量回復放流実施要領」
- ・「宮川における流量回復放流実施要領の運用」
- ・「【試行用】かんがい放流と流量回復放流の同時放流実施運用」

宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議について

○令和5年8月24日 第1回検討会議を開催

【内容】 令和4年度調査、検討結果の報告

(各部局の主な取組)

地域連携・交通部: 現地調査結果と検討結果を基に関係機関と意見交換を開催し、
双方の課題等を確認

環境生活部: 流量回復放流前後の水質状況は、概ね安定していることを確認

農林水産部: 鮎の餌環境及び水温は適していることを確認

県土整備部: 宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測を実施

教育委員会事務局: 天然記念物ネコギギの生息状況を取りまとめた

【内容】 令和5年度の取組

(各部局の主な取組)

地域連携・交通部: 地元要望を踏まえた上で課題を整理し、意見交換の場で協力を求める

環境生活部: 流量回復放流前後の水質状況を継続調査

農林水産部: 生息環境調査について、付着藻類と水温調査について継続調査

県土整備部: 流況を把握するため2地点での流量観測を継続調査

教育委員会事務局: 引き続きネコギギに関するデータ蓄積

令和5年度（第1回）宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議 報告書

資料3 令和5年度
環境生活部

令和4年度取組内容		令和5年度取組内容		備考
流量回復放流前後の水質状況の調査を実施		流量回復放流前後の水質状況の調査を実施		
①-1令和4年度調査結果	①-2令和4年度検討成果	②-1 令和5年度取組（調査、検討）	②-2 8月時点進捗確認、年度末見込み	
・流量回復放流実施時には水質調査実施 ・継続して、通常水質データを蓄積	・7月の流量回復放流前後の水質の変化について調査を実施。放流直後、水温やpH等の変化が確認できたが、1週間後には安定した。 ・令和4年度の河川水質は、環境基準（河川）を概ね満たしていた。	・流量回復放流実施時には水質調査実施 ・継続して、通常水質データを蓄積	・7月の流量回復放流にあわせて、水質調査を実施。 ・継続して、通常水質データを蓄積	大気・水環境課

農林水産部

令和4年度取組内容		令和5年度取組内容		備考
鮎等の生息環境としての現況把握を実施		鮎等の生息環境としての現況把握を実施		
①-1令和4年度調査結果	①-2令和4年度検討成果	②-1 令和5年度取組（調査、検討）	②-2 8月時点進捗確認、年度末見込み	
・宮川上流漁協管内の2地点でアユの生息環境（付着藻類（クロロフィル蛍光強度）、流速、水温等）の状況を把握する。	・付着藻類については、昨年と比べて数値は低いものの中栄養の範囲でアユの餌料環境としては悪くない状況であったと考えられる。平均水温については18～28℃であり昨年と比べ低温域の数値が上昇した。	・引き続き宮川上流漁協管内の2地点でアユの生息環境（付着藻類、水温等）の状況を把握する。	・6月、7月の調査を実施。9月迄実施予定	水産研究所

国土整備部

令和4年度取組内容		令和5年度取組内容		備考
宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測に継続		宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測に継続		
①-1令和4年度調査結果	①-2令和4年度検討成果	②-1 令和5年度取組（調査、検討）	②-2 8月時点進捗確認、年度末見込み	
・引き続き流量観測を実施し、データの蓄積を行う。	・令和4年度の宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流況について、流量観測を行った。	・引き続き流量観測を実施し、データの蓄積を行う。	・昨年度に引き続き、毎月1回の流量観測（2地点）を実施する。	河川課

教育委員会・農林水産部

令和4年度取組内容		令和5年度取組内容		備考
ネコギギ等の希少種について情報収集、必要に応じた生物調査を実施		ネコギギ等の希少種について情報収集、必要に応じた生物調査を実施		
①-1令和4年度調査結果	①-2令和4年度検討成果	②-1 令和5年度取組（調査、検討）	②-2 8月時点進捗確認、年度末見込み	
・引き続きデータの蓄積を行う。	・令和4年度のネコギギ生息状況について取りまとめた。	・引き続きネコギギ生息状況に関するデータの蓄積を行う。	・宮川流域で行われる開発事業に関して協議を行い、ネコギギ保護に必要な手続きや生息状況調査について助言を行っている。	社会教育・文化財保護課
・生物多様性アドバイザー等の専門家による協力	・希少種の生息状況について情報を共有した。	・生物多様性アドバイザー等の専門家による協力。	・調査実績はないが、今後必要性に応じて、生物多様性アドバイザー等専門家の協力を得て生物調査を実施する。	みどり共生推進課

地域連携・交通部

令和4年度取組内容		令和5年度取組内容		備考
より良い流況に向けた流量回復等の方策について、関係機関・部署との意見交換を実施		関係機関・部署との意見交換を実施、諸課題の整理		
①-1令和4年度調査結果	①-2令和4年度検討成果	②-1 令和5年度取組（調査、検討）	②-2 8月時点進捗確認、年度末見込み	
・整理結果から環境面からの検討を行い、より良い流況に向けた流量回復等の方策について、関係機関・部署との意見交換を開始する。	・現地調査結果と、現況の河川利用状況等の課題等について関係機関と意見交換を開催し、双方の課題等を確認した。（3回実施）	・現地調査結果と地元要望等を踏まえたうえで課題を整理し、意見交換の場で協力を求める。	・調査結果を踏まえて関係者との意見交換を行った。今後も継続して意見交換を行い、意見及び諸課題を整理する。	水資源・地域プロジェクト課